

# 日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

# 普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万3000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2024年12月5日

元気が出る  
みんなの  
取り組みを  
ご紹介

## 楽しく普及拡大

子ども、保護者も、指導員も、読み応えのある記事が満載です！

さあ！ほいく誌購読の輪を広げよう！仲間を増やそう！

## 全国研を開催した岡山県の取り組みを紹介します！

### ほいく誌の紹介ボード！

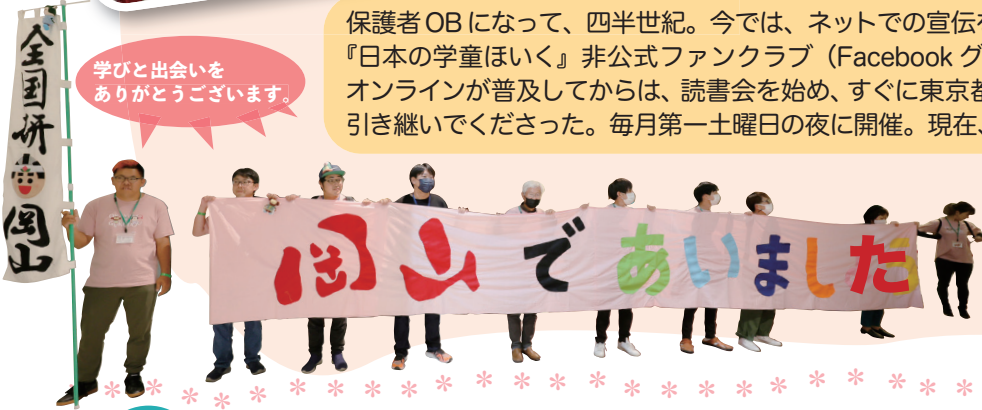


『日本の学童ほいく』を広めるために、“興味のあるページから読んでもらおう！”と、学童保育の部屋の前に「紹介ボード」を設置しました。書店で見かけるポップをつけた効果か、お迎えの際に立ち止まって読んでいる保護者がちらほら。先日、ある保護者の方から、「毎回楽しみにしています！一冊はなかなか読みきる自信がないけど、子どもを待っている間に読むことができるのがいいです」とうれしいお言葉をいただきました。また、取り上げたページについて、「読んでいてハッと気づかされることもあります」とも。今後は、「紹介ボード」をきっかけに、ほいく誌を手にとってもらい購読につなげ、読んだ記事について語りあえることを楽しみにしています。



保護者OBになって、四半世紀。今では、ネットでの宣伝をがんばっています。『日本の学童ほいく』非公式ファンクラブ（Facebookグループ）を9年前に作り、コロナ禍でオンラインが普及してからは、読書会を始め、すぐに東京都の江東区学童保育連絡協議会さんが引き継いでくださった。毎月第一土曜日の夜に開催。現在、メンバー667人。

学びと出会いを  
ありがとうございます。



全国研 in 岡山  
全国各地からご参加  
いただきありがとうございます。  
来年は福岡で  
お会いしましょう！



## 日本の学童ほいく10月号 特集 子ども・保護者と共に歩む 学童保育

今回の特集では、特に支援や配慮を必要とする子ども（\*特に支援や配慮を必要とする状況＝生活の困窮、保護者の病気や障害等による養育困難、ひとり親家庭等で育児と就労の両立が困難な家庭、虐待、DV等の問題がある家庭など）の現状と課題、子どもや保護者を支えるうえで大切にしたい視点を学ぶとともに、学童保育における関わりの実際や自治体の施策を交流します。



# 日本の学童ほいく

みんなで読もう！ 目標 3万3000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

# 普及拡大 ニュース

2024年12月5日

## 読者の声

### 埼玉県坂戸市 ● 指導員から

私は、学童クラブの指導員になって4年目になります。今年、3年間勤務した学童クラブから異動し、新しい環境に身を置くことになりました。4月から新たな勤務先での生活が始まり、4か月が経とうとしています。

異動して感じたことは、やはり場所が変われば保育の方法や指導員の考え方、子どもの様子などさまざまなことが異なるということでした。それは悪いことではなく、いままでの3年間で学んできた自分の保育のやり方から、大事にしたい部分は残しつつ、変えていく部分は変化させていくいい機会になりました。また、気づかぬうちに「これはこういうもの」「こうするべき」と思っていたことを切り替えるいい機会にもなりました。

当初はお互いに緊張して、様子を見ている部分もあった子どもたちと私。時間が経ち、一緒に過ごしていくなかでだんだんと会話が増えていき、関係ができていくおもしろさを感じています。

『日本の学童ほいく』2024年10月号「読者のひろば」より

### 神奈川県横須賀市 ● 保護者OBから

2024年6月号の特集「子どもたちと一緒につくる夏休みの生活」に書かれた「みんなで楽しい夏休みを！」を読みました。

暑い暑い夏がはじまりました。子どもたちは、朝から夕方まで学童保育で過ごします。

家に一人でいるより、学童保育で過ごすほうが友達と一緒に楽しいのでは……と親は思いますが、子どもにとっては、楽しい部分もあれば、気を使う部分もあるのかなと。高学年になるとよけいにそうかもしれません。ただでさえ、暑くて疲れがちになったり、イライラしたりもしますよね。そんななか、ふと、なにも言わずに、ただ隣にいる。気にかけているような、いないような。「きょうだい」みたいな、そんな関わりってすてきな、と思いました。一緒にいるからといって一緒に遊ばなければならないわけではない。おうちのような雰囲気がある。そうしたことが子どもにとっては必要なんだろうなと感じました。

いつも子どもたちを気にかけて見守ってくれている指導員さんたちに、あらためて感謝だな、と思いました。

『日本の学童ほいく』2024年10月号「読者のひろば」より

私が学童保育に出会ったときに6年生だった子が、今年22歳になりました。子どもの成長は早いと思いつつ、放課後の日々を一緒に過ごせて、幸せに思います。

3年生～6年生になると、「行きたくないんだけど～っ」と言う子もいます。悲しいことですが、ぐっと我慢して、「そっか～、そ～だよ、家に帰りたいね」と言うと、「お母さん、仕事だからね」と自分で気持ちを切り替える。「おお～」と私の心の声（笑）。

楽しく遊んでいるうちに時間を忘れる子、「お迎えが早すぎ」と帰らない子。私たち指導員はともにおもいきり遊び、笑い、寄り添い、話を聞き、叱るときは叱る。子どもたち、保護者の方たちにとって学童保育はどのような場所なのだろう、どのような場所だったのだろう。ほいく誌を読み、全国各地の読者の綴る悩み、想いに共感しています。

子どもたちの未来のため、大きくなったときに「懐かしい」「楽しかったな」と思える場所でありたいと、私も思います。

鹿児島県連協では「ほいく誌で学ぼう会」を行っています。私の住む奄美でも研修に取り組み、学童保育に携わる方々と支えあっていきたいと思っています。

## 私と「ほいく」誌

読者リレー執筆・鹿児島県奄美市から  
あおぞら児童クラブ指導員の行麻美さん